

TMS-19-Q・GC 錠にかんする臨床的検討

松本文夫

神奈川県衛生看護専門学校付属病院内科

高橋孝行

神奈川県衛生看護専門学校付属病院中央検査科

平林哲郎

神奈川県衛生看護専門学校付属病院薬剤科

新しく開発されたマクロライド剤 TMS-19-Q・GC 錠について、臨床効果を検討したところ、以下のような成績を得た。

内科領域における肺炎 3 例すなわちマイコプラズマ肺炎 2 例、細菌性肺炎 1 例に本剤を 1 回 200 mg、1 日 3 回食前に経口使用したところ、全例に有効の結果を得た。

本剤が良好な臨床効果をおさめ得たことについては、いくつかの理由が考えられるが、全例が基礎疾患をもたない中等症例であったことと、本剤の良好な吸収性と肺内移行があげられる。

TMS-19-Q は本邦で開発された 16 員環マクロライド剤であり、Kitasamycin の一成分である Leucomycin A₅ (LM A₅) の 3' 位を化学的に propionyl 化して得られた半合成抗生剤である¹⁾。

本剤は従来の 16 員環マクロライド剤に比べて、グラム陽性球菌、嫌気性菌、マイコプラズマなどに対する優れた抗菌力と高い血中濃度が特徴とされ²⁾、一部のマクロライド耐性菌に対しても抗菌力を有するとされている²⁾。

今回、私達は肺炎を対象に本剤の臨床効果を検討したので報告する。

I. 検討方法

本剤の特徴を考慮して対象疾患に肺炎を選んだ。対象症例は昭和 57 年 6 月から同年 12 月までの 7 か月間に当科を受診した肺炎のうちの 3 例である。2 例はマイコプラズマ肺炎であって、残りの 1 例は細菌性肺炎である。また、性別は男性 2、女性 1 例で、年齢は 31~51 歳に分布し、全例外来患者である。

TMS-19-Q・GC 錠の使用法はいずれも 1 回 200 mg、1 日 3 回 (毎食前) の経口使用であって、本剤使用後 4、8 日および治療終了日に臨床効果を判定した。なお、臨床効果の check point は自他覚症状、体温、末梢白血球数、CRP、胸部 X 線所見などとした。副作用については自他覚症状の観察のほか血液一般、尿、肝機能 (S-GOT, S-GPT, Al-P, 総ビリルビン)、腎機能 (BUN, クレアチニン) を使用前および使用後に検査し、異常値の出現の有無を検討した。

II. 成績

対象症例は上記のように、3 症例であるが、それぞれ

の臨床経過について記述する。

症例 1 A.S., 33 歳, 女性, マイコプラズマ肺炎。

本症例は初診約 1 週前から感冒様症状を呈していたが、そのまま放置していたところ、初診前日 40°C の発熱とともに咳嗽の増強が認められたために当科を受診した。

初診時、体温 38.3°C、脈拍数 90/分、血圧 120/76(7) mmHg で、左背部下肺に湿性ラ音を聴取し、声音振盪の増強もみられた。胸部 X 線所見では左下肺野に肺炎像を認め、末梢白血球数 7,600/mm³、CRP 5+, 寒冷凝集反応 64× であった。肺炎の診断にて本剤を使用したところ、使用 4 日後には平熱化し、咳嗽も軽減して、本剤に反応した。8 日後には自他覚症状はほとんど消失し、胸部 X 線所見でも肺炎像はほとんど消褪した。本剤 11 日間の使用で治癒におもむき、有効の結果が得られた。なお、発症 10 日目のマイコプラズマ CF 抗体は 64× であって、寒冷凝集反応は 124× であった。本症例の臨床経過を Fig. 1 に示した。

症例 2 S.E., 51 歳, 男性, マイコプラズマ肺炎。

本症例は初診 1 週前に感冒様症状あり、近医を受診し、治療を受けていたが、次第に咳嗽は増強し、右胸痛を呈したために当科を受診した。

初診時、体温 38°C、脈拍数 98/分、血圧 140/80(7) mmHg で、右下肺野に湿性ラ音を聴取した。胸部 X 線所見では右下肺野に肺炎像を認め、末梢白血球数 10,100/mm³、CRP 9+, 寒冷凝集反応 128× であった。肺炎の診断にて Amoxycillin (AMPC) 1 回 250 mg、1 日 3 回 3 日間使用したが、効果なく、本剤に変更した。本剤

Fig. 1 A. S., 33 y. o., Mycoplasma pneumonia

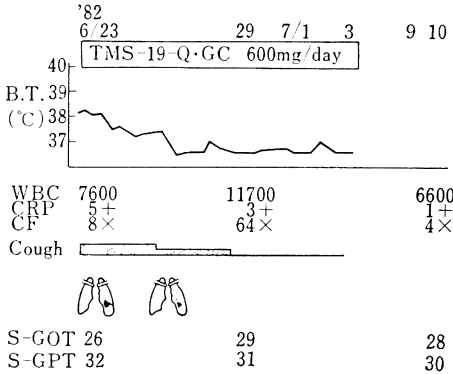
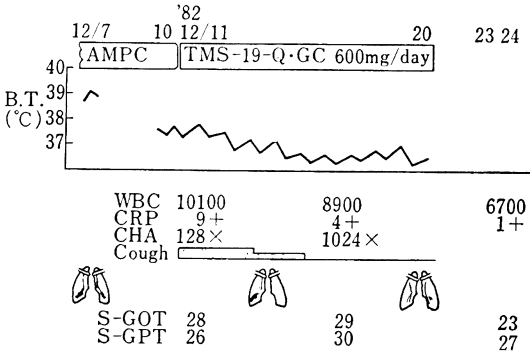


Fig. 2 S. E., 51 y. o., Mycoplasma pneumonia

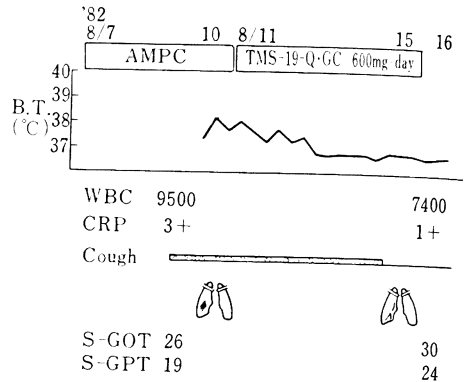


使用4日後には平熱化し、よく反応した。自覚的には胸痛は3日後、咳嗽は5日後に消失し、湿性ラ音は5日後に消褪して、本剤使用10日間で、治癒におもむき、有効の結果を得た。また、8日後の末梢白血球数は、8,900/mm³、CRP 4+、寒冷凝集反応 1,024×であり、治療終了日の白血球数は、6,700/mm³、CRP は 1+ であって、胸部X線所見でも肺炎像は消失した (Fig. 2)。

症例 H. S., 31 歳, 男性, 細菌性肺炎。

本症例は初診1週前に感冒に罹患、近医を受診し、治療を受けていたところ、一時軽快したが、4日後 38°C の発熱とともに咳嗽の増強をきたしたために再受診し、

Fig. 3 H. S., 31 y. o., Bacterial pneumonia



抗生剤 (Amoxycillin) の使用を受けた。しかし軽快しないために Amoxycillin 使用3日目に当科を受診した。

初診時、体温 38°C、脈拍数 90/分、血圧 130/70 (mmHg) で、右背部下肺に湿性ラ音を聴取し、胸部X線所見でも右下肺野に肺炎像を認めた。末梢白血球数 9,500/mm³、CRP 3+、寒冷凝集反応 4×、マイコプラズマ CF 抗体 4× であった。細菌性肺炎の診断のもとに本剤を使用したところ、3日後には平熱化し、自覚症状も軽快し、咳嗽は4日後に消失した。胸部湿性ラ音は3日後に消失して、本剤使用5日で、治癒におもむき、有効の結果が得られた。本症の臨床経過を Fig. 3 に示した。

III. 副作用

副作用は本剤使用後における自覚症状および諸臨床検査の異常値の出現の有無によって検討した。その結果は Table 1, 2 のとおりで、自覚症状の副作用は認められなかったし、検査値の異常も認められなかった。

IV. 考 按

Kitasamycin はグラム陽性球菌とマイコプラズマに対する優れた抗菌力と良好な肺内移行によって、呼吸器感染症に対する有用性が認められているが、経口剤であることから軽症ないし中等症に使用される場合が多い。

私達は今回中等症の肺炎を対象疾患として選定して、

Table 1 Clinical result with TMS-19-Q-GC tab.

Case	Age Sex	Clinical diagnosis	Causative organism	Daily dose Duration	Clinical results	Side effect	Note
A.S.	33 F	Mycoplasma pneumonia	Normal flora	600mg/day 11 days	Good	—	CF: 8x→64x
S.E.	51 M	Mycoplasma pneumonia	N.D.*	600 10	Good	—	CA: 128x→1024x AMPC: non effective
H.S.	31 M	Bacterial pneumonia	N.D.	600 5	Good	—	AMPC: non effective

* N.D.: Not detected

Table 2 Laboratory findings

Case	RBC (10 ⁴)	Hb (g/dl)	Ht (%)	Platelet (10 ⁴)	GOT (KU)	GPT (KU)	Al-P (KA)	BUN (mg/dl)	Cr. (mg/dl)	
A.S.	B*	369	11.0	32.7	12.0	26	32	7.6	14	0.96
	A	341	10.2	29.9	15.3	29	31	7.3	13	0.90
S.E.	B	454	14.3	43.6	32.9	28	26	6.7	19	0.90
	A	456	14.4	43.8	42.0	23	27	7.0	16	1.0
H.S.	B	543	15.5	47.5	21.5	26	19	7.4	16	0.96
	A	548	15.8	48.8	24.6	30	24	7.7	14	0.92

* B : Before treatment

A : After treatment

Kitasamycin の一成分, LM A₅ の誘導体である TMS-19-Q-GC 錠の臨床効果を検討した。その成績はマイコプラズマ肺炎 2 例, 細菌性肺炎 1 例で, いずれも有効の結果が得られ, 有用性が示唆された。良好な有効性が得られた原因は全例が中等症であったことと, 3 例中 2 例がマイコプラズマ肺炎であったことに起因するものと思われるが, 本剤の良い吸収性と肺内移行も一因と考えられる。また Amoxycillin 無効の細菌性肺炎例に対して, 本剤が有効であった事実は本剤の有用性を示唆するものとして注目されるが, 1 例であることから今後の検討が必要である。

副作用については使用症例数が少ないために評価はさしひかえるが, 現状では重大なものはないものと思われる。

文 献

- 1) SAKAKIBARA, H.; O. OKEKAWA, T. FUJIWARA, M. OTANI & S. ŌMURA: Acyl derivatives of 16-membered macrolides I. Synthesis and biological properties of 3'-O-propionylencomycin A₅ (TMS-19-Q). J. Antibiotics 34: 1001~1010, 1981
- 2) 第 31 回日本化学療法学会総会, 新薬シンポジウム IV。TMS-19-Q, 大阪, 1983

CLINICAL STUDY ON TMS-19-Q-GC TABLET

FUMIO MATSUMOTO

Department of Internal Medicine, Kanagawa Prefectural
Nursing and Hygienic School Hospital

TAKAYUKI TAKAHASHI

Central Laboratory, Kanagawa Prefectural Nursing and
Hygienic School Hospital

TETSURO HIRABAYASHI

Pharmacy, Kanagawa Prefectural Nursing and
Hygienic School Hospital

The clinical effects of TMS-19-Q, a newly developed macrolide antibiotic, were examined.

The results obtained were as follows: A dose of 200mg, 3 times a day before every meal were orally administered to 3 cases of pneumonia, i.e., 2 cases of mycoplasmal pneumonia and 1 case of bacterial pneumonia and all the cases were found to be effective.

This favorable results were probably due to the facts that all the cases were moderate in severity of the symptom with no underlying diseases and that absorption and transfer to the lung of this drug were excellent.